

名前：

インターネットが発達した現在、新聞や雑誌の発行部数は減少している。高速性や伝達性においてインターネットは新聞や雑誌など紙媒体を上回るからだ。このような状況の中で新聞や雑誌を不要とする主張が増えている。

それにも関わらず、紙媒体は今後も必要である。第一にインターネットが普及しているとはいえず、途上国などでケーブルが配線されていない地域の方が多数だからである。その地域では新聞など紙媒体が必要となる。また、たとえ回線が通っているとしても、通信料などで金額の面で途上国、特に農村地域では負担となり、ネットを継続していくのは困難である。購読料が多少紙媒体に依存せざるを得ない。加えて途上国においては識字率の問題も絡む。識字率の低い途上国においては、新聞など紙媒体の運用能力も先進国に比べて低い。このような地域で、インターネットを配信したとしても、大量かつ高速に流れてくる情報を、現地の人間が理解するのは困難である。

る。インターネットを使いこなすパソコンの運用能力も身につけなければいけない。しかし途上国の人間はパソコンの能力以前に識字能力の向上が不可欠である。以上のような理由から途上国では紙媒体が不可欠である。

先進国においては、紙媒体による情報の保存が中心となる。先進国では途上国以上に情報が生産されるため、情報の保存が必要となる。インターネットは情報の保存という面でも、単純に電気がないでインターネットにアクセスできるだけでなく、仮に紙媒体をなくしてインターネットだけに統一した場合、災害時にネットが機能不全になり情報伝達が不可能になる。こうした状況では紙媒体が不可欠となる。矢ほど挙げた保存という観点から同様である。大量の電力消費の上にインターネットは成り立つが、紙媒体は低コストでの情報保存が可能である。

以上先進国と途上国を事例として紙媒体の重要性を述べた。これら以外にも紙媒体の効

率性はあるが別の機会に述べる。

1800字